



風水害時の避難

風水害の発生に備えて、事前に浸水被害への対策を行いましょ。避難が必要な場合は、原則として浸水等のリスクがない場所へ移動する立ち退き避難を行ってください。

風水害への備え

天候が悪くなる前に準備を完了しましょ。

家屋の浸水防止対策

排水口に水のうを置き、逆流を防止する。
証書類や持ち運べる家財などを屋内の高い場所や上階へ移動する。



ライフラインの停止に備える

ライフラインの停止に備え、数日分の備蓄を行う。
備蓄品は、食料(火や水を使わずに食べられるもの)や簡易トイレなど。



風水害時の非常持ち出し

すぐに持ち出せるように準備しておきましょ。

ないと困るもの



あると便利なもの



風水害時の避難の装備

天候が悪い中避難することも想定しておきましょ。

レインコートのフードを被っても視界が確保できるようキャップを被ると良い
レインコートは上下が分かれるセパレートタイプのものが動きやすい
台風等の風が強いときには傘は閉じて杖替わりにする



両手がふさがらないリュックサックで移動を！防水性があると良いが防水機能がないものは中身が濡れないよう袋に入れておく
スマートフォンは濡れても操作できるよう密封袋に入れておく
長靴ではなく、長距離移動ができるよう歩きやすいスニーカー等が良い

立ち退き避難の注意点

洪水や土砂災害が発生する前に避難を完了しましょ。

早期に立ち退き避難開始 警戒レベル2～

不安や危険を感じたら、避難情報の発令を待たずに浸水等のリスクがない場所にある知人宅やホテルへ避難を始める。



飛来物に注意 警戒レベル3～

気象状況が悪化して徒歩による避難が困難になるのはもとより、風でもものが飛んでくる可能性があり大変危険。



徒歩避難は足元に注意 警戒レベル3～

浸水が始まると「足をすくわれる」「深みにはまる」などの危険がある。
杖や棒などで足元と水の中の障害物などを確認しながら歩く。



車両による避難 警戒レベル3～

交通規制や渋滞などにより、身動きがとれなくなる可能性がある。
車両の使用は高齢者の搬送などを優先する。

